

令和元年度下半期 学会誌編集委員会活動報告

委員長：井上 健 副委員長：上條 岳彦

委員：伊勢 一哉、加藤 元博、野崎 美和子、澤田 明久、宗崎 良太、橋井 佳子
脇坂宗親

日本小児血液・がん学会雑誌について

① 56 巻 期間内発刊号数

56-1 号 (2019 年 4 月 12 日公開)

56-2 号 (2019 年 9 月 10 日公開)

56-3 号 (2019 年 11 月 16 日公開)

56-4 号 (2019 年 12 月 19 日公開)

56-5 号 (2020 年 2 月 7 日公開)

② 期間内投稿状況 (原著、症例報告、総説)

一般投稿数 34 編

(内訳)

原著 12 編

症例報告 20 編

総説 1 編

その他 1 編

依頼総説 (講演記録) 42 編

期間内アクセプト (依頼総説を除く) 30 編

(内訳)

原著 9 編

症例報告 20 編

総説 1 編

期間内リジェクト 5 編

(内訳)

原著 1 編 (取り下げ)

症例報告 4 編 (うち、取り下げ 1 編)

総説 0 編

③ その他

共著者の著作権譲渡同意書について

現在1枚にまとまっているため、共著者の所属が様々である場合、作成しづらいと責任著者から意見があった。著者のストレスを軽減し、より簡便で使い勝手をよくするために、

- ・共著者ごとに、バラバラに提出しても可
- ・ただし、責任著者が集約をして編集事務局にまとめて同封すること
- ・共著者番号を削除

の意見が出された。審議の結果、編集事務局が改訂案を作成し、メール上で審議した。

依頼原稿での英文抄録に関してについて

2018年11月の投稿規定の改定に伴い、講演記録（依頼総説）の場合でも、会員の場合は英文アブストラクトを作成してもらうことになったがある会員から、英文アブストラクトを辞退したいという申し出があった。編集委員会で審議をした結果、原則的には英文アブストラクトを作成してもらうが、どうしても辞退したいという著者には、理由書を提出していただき、担当編集委員が検討することになった。

各論文のフッタ（ランニングタイトル）の文字制限について

現在の投稿規定で規定されているランニングタイトルの文字数は、「全角15字以内」となっている。実際には15字を超えて投稿されてくる論文も少なくないが、組版上支障がないため、そのままになっている。審議の結果、ランニングタイトルは少ない方がよいので、投稿規定はこのままとし、実際には20字程度まではよいということになった。20字を超えた場合は、編集委員長が審議することになった。

査読者の選定について

担当編集委員として査読者を選定する際、断られるケースがあり、次点候補者の選出に苦慮している、という意見が出された。予め次々点候補者まで選出し編集事務局に指示をしても構わないことになった。どうしても候補者選出に苦慮する場合は、メール上で編集委員会審議とし、編集委員から意見を募っても構わないことになった。

講演記録（依頼総説）の著者の校正戻りについて

2018年度学術集会のある依頼演者から、164ヶ所の校正依頼があった。編集委員会で審議の結果、今後同様のケースがあった場合はケースバイケースで対応することになった。

PBCにレターとして掲載されたものに、データを追加して当学会雑誌に投稿できるか？という問い合わせについて

編集委員会で審議した結果、二重投稿に抵触する可能性があるため、原著としての投稿は難しい、という結論になった。一般総説として投稿を勧めることになった。

最終判定の結果通知について

最終判定の結果は、現在、査読者に通知していないが、今後は送信することになった。

以上